

平成18年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰受賞者
(五十音順)

[個人]

なかだ いちろう
中田 市郎 (富山県氷見市)

[団体]

あいさんこうぎょうかぶしきかいしゃ あんじょうこうじょう
愛三工業株式会社 安城工場 (愛知県安城市)

あさひかわし みどり かい
旭川市を緑にする会 (北海道旭川市)

くまの もり かい
～熊野の森ネットワーク～いちいがしの会 (和歌山県田辺市)

くろいそこうえんあいごかい
黒磯公園愛護会 (栃木県那須塩原市)

ざいだんほうじん ひ ご みずしげんあいごききん
財団法人肥後の水資源愛護基金 (熊本県熊本市)

さんぞんじゅく
山村塾 (福岡県八女郡黒木町)

そ おしり つたからべきたちくこうみんかん
曾於市立財部北地区公民館 (鹿児島県曾於市)

ど き が わせいぶつけんきゅうかい
土器川生物研究会 (香川県丸亀市)

なかむらろうじん
中村老人クラブ (兵庫県神崎郡神河町)

にととうきんぞくこうぎょうかぶしきかいしゃ ふたばこうじょう
日東金属工業株式会社 双葉工場 (福島県双葉郡双葉町)

ふじまつきた しょうねんだん
富士松北みどりの少年団 (愛知県刈谷市)

みさかしょうがっこうこうつうあんぜんはは かいなかみさかぶんかい
三阪小学校交通安全母の会中三坂分会 (福島県いわき市)

みや したむら かい
宮ノ下村づくり会 (富山県富山市)

めいじょうすいとちかいりょうく
明治用水土地改良区 (愛知県安城市)

もり しょうねんたい
森の少年隊 (北海道帯広市)

[学校]

おおいたけんりつさいきつるおかこうとうがっこう
大分県立佐伯鶴岡高等学校 (大分県佐伯市)

くさつちょうりつくさつちゅうがっこう
草津町立草津中学校 (群馬県吾妻郡草津町)

くまもとしりつみずみなみちゅうがっこう
熊本市立出水南中学校 (熊本県熊本市)

しずくいしちょうりつおみょうじんしょうがっこう
雫石町立御明神小学校 (岩手県岩手郡雫石町)

ほこたしりつのともしょうがっこう
銚田市立野友小学校 (茨城県銚田市)

[地方公共団体]

おおのちょう
大野町 (岐阜県揖斐郡大野町)

たかやまし
高山市 (岐阜県高山市)

やまなこむら
山中湖村 (山梨県南都留郡山中湖村)

[個人]

<p>ふりがな 名称</p>	<p>なかだ いちろう 中田 市郎</p>
<p>住所</p>	<p>富山県氷見市</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同氏は、長年にわたり農林業に従事し、所有する山林16haを自家労力により管理・経営し、現在も年間200日程度山に行き施業を行っている。</p> <p>このほか、富山県指導林家として県内林業者の指導にあたっているが、そのみに限らず、平成9年度からは地元小学校の森林教室として自己山林を開放し、森林に関する講話や炭焼き体験の指導を行っている。さらに、平成11年度からは本県独自の取組である「～社会に学ぶ～14歳の挑戦」事業（中学2年生が5日間連続で職場体験を行うもの）で、生徒を毎年受け入れ、自らの経験を踏まえた現地指導を行っている。</p> <p>また、富山県産材の振興にも力を注いでおり、平成12年からは、「とやまの木で家をつくる会」の設立趣旨に賛同、木材を提供するだけでなく、会の理念である「顔の見える家づくり」を進めるため、自己山林を森林見学会や体験イベントの場として開放、参加者に森林や木材のすばらしさやそれを支える技術を紹介している。</p>

[団 体]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>あいさんこうぎょうかぶしきかいしゃ あんじょうこうじょう 愛三工業株式会社 安城工場</p>
<p>所 在 地</p>	<p>愛知県安城市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>取締役工場長 野村 耕三</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同工場は、昭和46年3月操業開始の輸送用機械器具製造工場で、高い緑地率を確保するとともに、ゴミ拾いを始めとした環境美化活動等地域社会へも貢献してきた。</p> <p>経営理念に「企業の繁栄と豊かな環境作りで社会に貢献する」を掲げ、緑化活動を中心に地域社会との対話、交流及び調和を図っている。</p> <p>これまでに、計画的な緑地整備に努め、周縁部緑地への散策道、境界フェンスを後退させて憩いの森などを整備してきた。平成15年からは、果実コーナーを中心とした新たな緑地整備を始め、平成17年には、ビオトープ空間としての菖蒲池やログハウス式の休憩所が設置された。この場所は「癒しの里」と呼ばれ、従業員のほか、地域住民の憩いの場としても活用されている。</p> <p>また、平成12年から開始した瓢箪栽培が従業員と地域住民との交流を更に活発にした。平成16年には瓢箪作りを指導した幼稚園児がコンクールに出品し、高い評価を得るなど子供たちへの伝統文化の継承にも貢献している。加えて平成15年から地域の少年野球チームへ、また、平成17年には大学の女子硬式野球部へグラウンドの定期開放を開始し、青少年の健全育成にも力を注いでいる。</p>

[団 体]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>あさひかわし みどり かい 旭川市を緑にする会</p>
<p>所 在 地</p>	<p>北海道旭川市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>会長 村田 正一</p>
<p>功績の概要</p>	<p>緑をつくり、育て守る活動を進めることを目指して昭和48年に結成されたが、現在では、緑を後世に引き継ぐ活動にも重点を置いている。</p> <p>公園・緑地等の地域住民の憩いの場や空港、動物園、道路並木等市民が利用する公的施設に記念植樹を行ったり、子供たちに緑の大切さを知ってもらい、植樹をとおし緑を育て守る心を持ってもらうために、積極的に樹木支援を行い、これまでに6万5千本の樹木を植樹、支援し緑化推進に貢献した。</p> <p>また、民有地緑化の推進と普及・啓発活動として、「みどりの日」及び花フェスタ等のイベントで、現在までに、2万本強の苗木の配布活動を実施している。</p> <p>ほかにも、市内に現存する都市の景観上重要なポイントとなる大木や地域で歴史的に由緒のある老木等の保護・保存活動を実施し、次世代に引き継ぐため小冊子を発行し、見学会を実施するなど保存普及活動に努めている。</p>

[団 体]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>くまの もり ～熊野の森ネットワーク～いちいがしの会</p>
<p>所 在 地</p>	<p>和歌山県田辺市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>会長 竹中 清</p>
<p>功績の概要</p>	<p>平成9年に設立し、西南日本の原点ともいえる熊野の照葉樹林の保全と復活を目標とし、熊野地方の自然に関する調査・研究・学習・保全(植樹を含む)・環境意識の啓蒙など広範囲な活動を展開し、毎年、総会を開催し、会員相互の意見交換をしながら、活動内容の充実を目指している。</p> <p>平成14年度には自然環境功労者環境大臣表彰を受けたが、その後の主な植樹活動としては、平成16年に田辺市中辺路町滝尻(450本)平成17年度に田辺市稲成町高山寺(200本)、平成18年度には田辺市天神崎(160本)、など6か所で植樹を行った。特に、田辺市本宮町の大峰奥駆道(熊野古道)近くの植林では、田辺市と10年契約を結び、この植林地の自然林への復活を目指して巻き枯らし等の森林保全活動を行うとともに、自然林への復活の課程の中で土壌がどのように変化するかについて、大学の専門者の協力を得て継続調査中である。</p> <p>こうした照葉樹林の回復に向けた諸活動を展開することにより、本来の自然を取り戻すための第一歩を築き、熊野の自然の素晴らしさを広く紹介し、さらに、森林から流れる川の自然を含めて、自然環境に対する認識を深め、その意識の高揚に努めている。</p>

[団 体]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>くろいそこうえんあいごかい 黒磯公園愛護会</p>
<p>所 在 地</p>	<p>栃木県那須塩原市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>会長 阿部 ヒテ子</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同会は、昭和40年4月に発足し、現在に至るまでの約40年間にわたり、公園愛護の目的に賛同した公園近くの主婦達が、地道な活動を続け、市の緑化推進・美化運動の中心的役割を担っている。</p> <p>主な活動は、黒磯公園内の築山・花壇について、毎月定例的に除草・清掃活動を実施しているほか、スイセン、サルビア、ハボタン、パンジー等、季節の花々（700㎡）の植栽、築山（300㎡）のツツジやモミジの維持管理を行い、公園を訪れる市民や観光客の心に潤いを与えるとともに、那須塩原市の緑豊かなイメージの向上に貢献している。</p> <p>また、毎年、公園愛護の先進地を会員が視察し、花の配置方法や育成方法等を研究し、緑化技術の向上に努めている。</p> <p>このような活動により美しい公園が保たれ、多くの人々が訪れる公園を創出し、市民の緑化意識の普及啓発に寄与している。</p>

[団 体]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>ざいだんほうじん ひ ご みずしげんあいごききん 財団法人肥後の水資源愛護基金</p>
<p>所 在 地</p>	<p>熊本県熊本市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>理事長 長野 吉彰</p>
<p>功績の概要</p>	<p>昭和62年にふるさとのかけがえのない地下水を枯渇と汚染から守ろうという本基金長野吉彰理事長（当時肥後銀行頭取）の提唱から、肥後銀行と熊本日日新聞社の共催により、肥後の水資源愛護賞を創設し、県内各地で水資源のかん養、保全、水質汚染防止、節水などにつながる実践努力を続けている団体、個人を顕彰する事業を開始した。</p> <p>平成4年には事業のさらなる発展を目指して本基金を設立し、これまでに県内の222団体と11個人を顕彰しており、このうち、緑化に関しては、水資源のかん養や保全活動のために植樹などに取り組んでいる30団体を顕彰している。</p> <p>また本基金では、シンポジウム、新聞、テレビ番組等を通じての啓発活動やボランティア団体への助成など、毎年の顕彰事業のほかにもさまざまな事業を行っている。</p> <p>さらに、平成13年からこれまでに、本基金と肥後銀行は、南阿蘇村の国有林など約3haにクヌギやケヤキなど約8,000本の苗木の植樹を行い、苗木の成長を助ける下草刈りも行っている。</p>

[団 体]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>さんそんじゅく 山村塾</p>
<p>所 在 地</p>	<p>福岡県八女郡黒木町</p>
<p>代 表 者</p>	<p>代表 椿原 寿之</p>
<p>功績の概要</p>	<p>平成6年豊かな自然環境を保全することを目的に、任意団体「山村塾」を発足させる。都市などから会員を募集して棚田の修復や台風災害跡地の森林整備、農村ホームステイなどの活動始める。</p> <p>平成9年、活動拠点として、環境に配慮した建物「四季菜館」を建設する。参加者はここで寝泊まりし、環境保全型農業で生産された農作物を食べることによって、総合的な環境保全を身をもって体験している。</p> <p>以来稲作コースと山林コースを柱に活動を継続している。</p> <p>現在の会員は86家族であり、多彩な人々が参加し交流を深めている。平成16年の活動参加者は、ミニワークを含めて延べ620人に達する。</p> <p>山村塾では福岡県内の都市住民と黒木町の農林家がともに作業するのでその活動は農山村と都市交流そのものである。笠原小学生が保存している人形浄瑠璃の観劇やチェロとピアノによる里山コンサート等を通じて文化的な交流をも広く展開している。</p>

[団 体]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>そおしりつたからべきたちくこうみんかん 曾於市立財部北地区公民館</p>
<p>所 在 地</p>	<p>鹿児島県曾於市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>館長 坂口 利幸</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同公民館は、『環境保全推進の町』の先駆的な取組を積極的に推進している地域の環境保全団体であり、『花いっぱい運動』は、子供から大人、特に同地区の財部北小学校の児童で作る『みどりの少年団』や地区老人会とともに地域ぐるみで花壇の整備から花の苗作り、樹木の植付け剪定など親子のふれあい等を通して環境美化や環境教育を行いながら美しい街づくりに貢献している。</p> <p>同地区は鹿児島空港方面から県道に沿って来市する玄関口に位置しており、県道の空き地を県より借りて、地元産の間伐材で囲んだ手作りの花壇に花の植栽を行い、県道を往来するドライバーの目を楽しませている。また、種から育てた苗を地域住民へ無料配布し、植栽するなど地域を巻き込んだ緑化推進を行っている。</p> <p>平成15年度に環境大臣表彰受賞後から新たに卒業記念樹や敬老の日のお祝い花鉢贈呈など緑化と併せた地域美化活動に取り組んでいる。</p> <p>このような活動を通して、地域の環境美化や環境保全に努めるとともに、子供と大人のふれあいを通し地域の伝統を守り育てるなど環境教育活動にも顕著な功績が認められる。</p>

[団 体]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>どきがわせいぶつけんきゅうかい 土器川生物研究会</p>
<p>住 所</p>	<p>香川県丸亀市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>会長 宮崎 武</p>
<p>功績の概要</p>	<p>土器川生物研究会は、平成5年より、土器川生物公園整備に関して、計画段階よりかかわり、清掃、樹木や水辺の植生等の植樹、下草刈り、養生等の植栽維持管理、魚類等の生物調査や生育環境の創生維持管理、ボランティアで野外授業等のイベントの計画・誘致・開催協力に努めてきた。</p> <p>その結果、同公園は多種多様な鳥や魚等の生物が生息する全国でも珍しい河川敷内の生物公園になっており、同会が積極的に参画協力する環境学習や各種イベントが多数開催されており自然環境保全や緑化思想の啓発に貢献している。</p> <p>また、市内河川、ため池及び丸亀城内濠において、緑化清掃を中心に身近な植物等の調査、観察、保全緑化活動を通じて、会員の資質向上を図り、環境保全の心を養う行事緑化啓発活動等に役立てている。</p> <p>県が主催する中学生対象の行事を同公園で実施するよう要請し、会員が通常行っている公園内の清掃・緑化活動等、身近な植物生物観察を通じて、自然とのふれあい環境学習や緑化普及啓発に多大な協力を行っている。</p>

[団 体]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>なかむらろうじん 中村老人クラブ</p>
<p>所 在 地</p>	<p>兵庫県神崎郡神河町</p>
<p>代 表 者</p>	<p>会長 井上 秀男</p>
<p>功績の概要</p>	<p>中村老人クラブは、兵庫県神河町を南北に走る国道312号、東西に走る主要地方道加美宍粟線を中心に道路清掃・植樹帯の手入れ・除草及び路肩の草花の植栽などを昭和61年以降から継続して行い、地域の美観を高めるとともに通行者の心を和ませている。</p> <p>作業従事年数は20年を超え、作業日数は月1回の定期作業に加えて年5回の臨時作業を実施している。</p> <p>1回あたりの作業従事人数は定期が80人、臨時が20人で、作業延長は沿道1,200mとなっている。</p> <p>平成6年度兵庫県知事感謝賞、平成11年度道路ふれあい月間建設大臣表彰を受賞し、その後も継続して活動していることにより、地域の住民のみならず、他地域の人々にも、美しいまちづくり、道路愛護等の精神を広めている。</p>

[団 体]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>にっとうきんぞくこうぎょうかぶしきかいしゃ ふたばこうじょう 日東金属工業株式会社 双葉工場</p>
<p>所 在 地</p>	<p>福島県双葉郡双葉町</p>
<p>代 表 者</p>	<p>代表取締役 大山 浩一</p>
<p>功績の概要</p>	<p>日東金属工業株式会社 双葉工場は平成3年に製薬、化粧品、食品、化学、半導体メーカー向けのステンレス容器の製造を目的として設立した。</p> <p>建設計画時より地域環境との調和を図りつつ、地域に貢献できる工場を目指し、自然を大切にするために鎮守の森を外周に造成した。毎年6月にはキジの親子が巣を作り工場敷地内を散歩するなど、緑に囲まれた職場環境のもと「クリーンな職場、生きてる製品作り」を実感している。</p> <p>緑地等の維持管理は社員とシルバー人材センターが行っており、社員による芝生刈込、植木剪定、松剪定等緑地整備が定期的に行われている。</p> <p>また、自社だけではなく工業団地内の緑化活動にも積極的に参加し、緑化による街づくりにも貢献している。活動内容は、立地企業連絡協議会で実施している双葉町花いっぱい運動による花苗の植付けや、工業団地内各社で行う工業団地内花壇の除草に毎年参加している。新たな試みとして今年度から工場内、桜の木のライトアップも実施している。小・中学校の職場体験学習、高校生の職業選択支援に協力し、職場見学を受け入れており、創業時から変わらず地域社会に貢献できる工場を目指している。</p>

[団 体]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>ふじまつきた しょうねんだん 富士松北みどりの少年団</p>
<p>所 在 地</p>	<p>愛知県刈谷市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>校長 栗田 哲朗</p>
<p>功績の概要</p>	<p>昭和52年結成の同団は、自動車関連企業の多い刈谷市にあり、「緑に親しむ」、「緑の大切さを知る」、「緑を守り育てる」、「緑豊かな郷土をつくる」をテーマに様々な活動を展開している。</p> <p>同団の特筆すべき点は、里山再生への貢献である。学校東側には竹藪がはびこる里山林が広がるようになり、これを生き生きとした森によみがえらせた活動である。竹は伐るだけでなく、地元の協力を得て作った炭焼き窯で炭にして来校者や近隣の家庭に配布し、資源の有効活用を図っている。また、校庭のクヌギやシイノキのどんぐりから苗木を作り、林への移植後は下草刈りなどの作業を行い成長を見守っている。</p> <p>再生した森は、「北っ子の森」と呼ばれ自然環境教育や総合学習の場としてだけでなく、地域住民にとっても、散策などの憩いの場として親しまれている。</p> <p>このほか、市内の幼稚園や小学校、公園などへアジサイやアベリアの挿し木苗を提供するなど、地域の緑作りに貢献してきた。</p> <p>これら同団の地域に密着した活動は、地域住民の緑化環境への関心を大いに向上させるものとなっている。</p>

[団 体]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>みさかしょうがっこうこうつうあんぜんはは かいなかみさかぶんかい 三阪小学校交通安全母の会中三坂分会</p>
<p>所 在 地</p>	<p>福島県いわき市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>秋山 春江</p>
<p>功績の概要</p>	<p>三阪小学校交通安全母の会中三坂分会は、地域の小学校に通学する児童を持つ母親の会であり、交通安全活動のほかに、いわき市三和町中三坂地内の一般国道49号沿道において、多年にわたり定期的に草花の植栽と除草を実施し、同時に、歩道や法面の空缶やゴミを拾うなどの清掃活動も行っているところである。</p> <p>作業従事年数は25年を超え、年間の作業日数は冬期間を除いて8回となっている。</p> <p>1回あたりの作業従事人数は当地域の婦人消防隊からの有志の参加も得て20～30人で、作業延長は沿道110mとなっている。</p> <p>平成10年度第9回みどりの愛護功労者国土交通大臣表彰、平成13年度国土交通大臣道路ふれあい月間表彰を受賞し、その後も活動を継続して、母親らしい気配りとやさしさで、交通安全や地域の安全を見守りながら、道路の美化・保全と道路愛護精神の普及に努めているものである。</p>

[団 体]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>みや したむら かい 宮ノ下村づくり会</p>
<p>所 在 地</p>	<p>富山県富山市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>会長 本田 秀雄</p>
<p>功績の概要</p>	<p>昭和50年当時の野積地区は高度経済成長に伴い地区の過疎化が進行し、地区の活気が薄れかけており、花の街道づくりを通し、明るく住みよい花でいっぱいの魅力ある地域環境をつくとともに共同作業の素晴らしさ、人と人とのふれあいの大切さを伝えるため、会員16人で組織し、昭和50年3月に当会を結成した。</p> <p>昭和58年から本格的な花の街道づくりを開始し、地区内県道の沿道で花の植栽・除草・清掃等の管理を行い、田園風景とも非常に調和し、「やまあいの桃源郷」として訪れた人々の心を癒す場となっている。</p> <p>花の街道の延長は、現在では約3,000mにもなり、地区のシンボリック的存在になっている。また、会員の各家庭で育成した種子や球根を地区住民に配布して、地域ぐるみの花の里づくりを進めるなど、地域住民の緑化意識の高揚と環境美化に積極的に取り組んでいる。この花の街道づくりの影響は他の市町村にも波及し、交流や理解が深まるとともに、豊かな心身を養うきっかけ作りにもなっている。</p> <p>そして、会員の熱心な花づくりの取組により、県内外の花壇コンクールでも優秀な成績を保持し続け、県内でも抜きんできた花街道として、多くの見学者も訪れている。</p>

[団 体]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>めいじょうすいとちかいらいりょうく 明治用水土地改良区</p>
<p>所 在 地</p>	<p>愛知県安城市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>理事長 神谷 金衛</p>
<p>功績の概要</p>	<p>明治用水土地改良区は、矢作川水系 5 か所で524haの水 源かん養林を管理し、緑化に努めている。</p> <p>同改良区は、管理水路のパイプライン化に伴い水路上部 の用地を利用して緑地帯を設置する事業を推進し、緑地帯 の清掃作業による環境美化 P R 活動を実施するなど、地域 の緑化意識の高揚に努めている。</p> <p>また、同改良区は明治用水を学校に引き込んだ「緑の学 校づくり」の支援など、良好な風景の形成にも貢献してい る。</p> <p>同改良区は、緑化・美化活動を通じて、子供たちに水と 緑の大切さや重要性を知る機会を与えるだけでなく、魚つ かみ、水生植物の観察など自然と触れ合う楽しさを教え、 緑化意識の高揚と緑化思想の普及啓発に大きな成果を上げ ている。</p> <p>なお、「明治用水土地改良区女性部」は、水源かん養林 研修など独自に緑化推進活動に取り組んでいる。</p> <p>水源かん養林研修で、流域住民が森林づくりを実体験 し、「矢作川の流水源は森林にある」ことを認識すること により、森林保護意識の高揚と緑化思想の普及啓発が促進 されている。</p>

[団 体]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>もり しょうねんたい 森の少年隊</p>
<p>所 在 地</p>	<p>北海道帯広市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>指導委員長 高橋 猛文</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同隊は、学習活動や奉仕活動、レクリエーション活動を通して、自然の大切さを学ぶとともに緑化の実践活動を行っている。</p> <p>具体的には、開拓などで失われた森林の再生を目指し、昭和50年から進められている市民参加の「帯広の森」造成事業に昭和52年の隊の創設年から参加し、植樹や育樹活動、植樹祭で使用する郷土樹種の育苗活動など、「帯広の森」の造成活動の中で大きな役割を果たしている。</p> <p>また、隊が活動の中心となり市内の河川敷地に造成したエゾヤマザクラの並木は、春には美しい花を咲かせ市民になごみの場を提供し、さらには国が推進している「緑の回廊づくり」事業（緑豊かな憩いの空間を創出）への発展に寄与した。</p> <p>このほか、「帯広の森」での植生調査や樹木の成長調査をはじめ、巣箱掛け、桜並木の剪定、花壇の造成・管理、清掃などの奉仕活動にも積極的に取り組み、地域の緑化・美化の推進に大きく貢献している。</p> <p>一方、全国育樹祭大会会長賞受賞後の平成16年からは、指導員等の勉強会を開催するなど、次代を担う人材の育成にも努めている。</p>

[学 校]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>おおいたけんりつさいきつるおかこうとうがっこう 大分県立佐伯鶴岡高等学校</p>
<p>所 在 地</p>	<p>大分県佐伯市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>校長 田中 一洋</p>
<p>功績の概要</p>	<p>昭和44年に校訓の「自主・協力・実行」の精神を基に「学校緑化のための庭園づくり」を全生徒・職員で取り組み、その後「校内から校外へ」活動を拡大し、地域に恩返し・貢献できる学校として、以下の活動を展開している。</p> <p>① 地域を花で飾る『花いっぱい運動』</p> <p>生徒が種子から育てた花を地域の公共施設（市役所、警察署、駅、小・中学校等）に飾る活動、無人駅の花の植付けや花壇の手入れをする活動等を行っている。</p> <p>② 地域に貢献し、豊かな心の育成をめざす『ボランティア活動』</p> <p>「環境緑化活動」とともに「生活環境改善活動」にも発展させ、清掃活動だけでなく交通安全運動、歳末・災害募金などのボランティア活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>③ 『緑化推進環境づくりの心を育む活動』のお手伝い</p> <p>幼稚園や小・中・養護学校に生徒が出かけて花や稲などの栽培方法を実技指導する出前授業や関連作業のお手伝いを行っている。</p>

[学 校]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>くさつちょうりつくさつちゅうがっこう 草津町立草津中学校</p>
<p>所 在 地</p>	<p>群馬県吾妻郡草津町</p>
<p>代 表 者</p>	<p>校長 篠原 三千雄</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同校では、自然保護の精神を育てることを目的に、校庭花壇で育成したコマクサの種子と苗木を上信越高原国立公園の本白根山<small>もと</small>に植え付ける活動を、1年生を中心に地域住民の方にもご協力いただき、昭和56年以来、25年間に渡り継続して行っている。</p> <p>活動の際には、校内でコマクサ実行委員会をつくり、学習会を開き、調べ学習等で白根山周辺の自然やコマクサについて事前に勉強するなどしている。</p> <p>また、開花の時期においては、保護パトロールの実施や生徒手作りの保護看板の設置、植物を守るためにハイキングコースにロープを張るなど、地道な活動を地域の人たちと協力して行った結果、本白根山で絶滅しかけた「高山植物の女王」と呼ばれるコマクサの群落が復元されるなど、自然保護活動と環境美化活動に大きく貢献した。</p>

[学 校]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>くまもとしりついでみみなみちゅうがっこう 熊本市立出水南中学校</p>
<p>所 在 地</p>	<p>熊本県熊本市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>校長 竹田 義輝</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同校は昭和58年に母体校から分離、創立され今年が24年目になる。</p> <p>創立して間もなく始められた「江津湖クリーン作戦」は毎年500名程度が参加する活動へと発展し、平成2年には市長表彰を受け、現在も形を変えて続いている。また、こうした活動を通して、生徒たちの中に環境問題に関する問題意識が芽生え、熊本市及び熊本県科学研究所物展示会において生徒たちの研究発表が入賞するなど実績を重ねてきている。さらに、平成14年には創意工夫育成功労学校表彰「文部科学大臣賞」の栄誉に輝いている。</p> <p>「環境が人をつくる。」を合言葉に展開されている同校の環境整備への取組は、平成13年度に環境整備マスタープランとしてまとめられ、地域住民が朝夕や休日に訪れる地域のコミュニティセンターとしての役割も果たし、まさに開かれた学校として結実している。</p> <p>平成15年度全日本学校関係緑化コンクール学校環境緑化の部で文部科学大臣賞を受賞後も、上記マスタープランに沿って環境整備が進められ、各種の助成を受けながら、地域に根ざした学校へと向けて着実に歩みを進めている。</p>

[学 校]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>しずくいしちょうりつおみょうじんしょうがっこう 雫石町立御明神小学校</p>
<p>所 在 地</p>	<p>岩手県岩手郡雫石町</p>
<p>代 表 者</p>	<p>校長 加藤 兼弥</p>
<p>功績の概要</p>	<p>本校では、平成4年頃から学区内を流れる竜川(雫石川)の河川敷や河川公園の清掃を全校児童とPTAが一緒になって実施している。</p> <p>平成8年の「海の日」制定からは、祝日に合わせて親子で活動に取り組み、町内の雫石中学校や雫石高等学校、雫石漁協にも声をかけ、地域が一体となって流域の緑や自然環境を守ろうと活動している。</p> <p>また、平成10年からは「緑の少年団」を結成し、竜川(雫石川)上流部にある学校林への植林や下草刈りの体験学習を継続して実施し、水源地の自然環境保護や町の天然記念物チョウセンアカシジミの保護活動として、食樹であるデワノトネリコの植樹にも積極的に取り組んでいる。</p> <p>平成15年「緑の愛護」功労者国土交通大臣表彰を受賞した後も、御明神地区の小・中学生と高校生、PTAによる竜川(雫石川)の河川敷清掃を継続するとともに、新生「雫石町」50周年を記念した植樹祭への参加、「森と湖に親しむ旬間」行事の一環である清掃活動への参加、学校の創立130周年を祝う学校林へのスギの苗の植樹を実施するなど、地域緑化の推進に努めている。</p>

[学 校]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>ほこたしりつのもしょうがっこう 銚田市立野友小学校</p>
<p>所 在 地</p>	<p>茨城県銚田市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>校長 竹内 芳文</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同校では、学校東南斜面の学校林1.1haを利用して様々な活動を行っている。</p> <p>同校の学校林は、昭和50年代前半には松くい虫の被害が大きくほとんどの松が立ち枯れたが、昭和55年にPTAの奉仕でスギを中心に植栽を進め、現在の学校林の下地が完成した。その後も学校林は、児童のほかPTAや地域住民の奉仕により下草刈りや間伐などの維持管理がなされ、現在に至っている。</p> <p>同校では毎年、学校樹木の中から1本ずつ自分の木を選び、季節毎の変化の観察や自分でできる世話をすることにより樹木への愛着を深める「ぼくの木・わたしの木」を行っているほか、環境アドバイザーによる環境教育なども実施している。</p> <p>また、昭和54年から56年にかけて学校林内に整備したフィールドアスレチック施設は、在学児童だけでなく地域住民にとっても誇りとなっており、卒業生が懐かしさを感じて訪れることも多い。これらのフィールドアスレチック施設の改修や遊具の改修に、学校林の間伐材が使用されることもあり、間伐材の有効利用の一例となっている。</p>

[地方公共団体]

<p>ふりがな 名称</p>	<p>おおのちょう 大野町</p>
<p>所在地</p>	<p>岐阜県揖斐郡大野町</p>
<p>代表者</p>	<p>町長 杉山 茂</p>
<p>功績の概要</p>	<p>大野町はバラ苗の生産が盛んで、その生産量は日本一を誇っている。同町は、この全国的に有名なバラに着目し、平成9年にバラを町の花に指定するとともに、同年に完成したバラ公園を拠点とした産業振興や住民交流を図るなど住民参加を基本としたバラを活かしたまちづくりに取り組んでいることにより、平成14年の総務大臣表彰を受賞し、引き続きバラを中心とした緑化に係る取組を実施している。</p> <p>百種類2千本のバラが植えられているバラ公園では、毎年5月に、多くの住民がボランティアとして参加したバラまつりが町主催で開催されている。バラまつりは、住民団体による各種講習会やバラ苗の販売会等が行われ、約10万人が来場するなど同町を代表するイベントとなっており、住民や来場者の緑化意識の向上に大きく寄与している。</p> <p>また、同町は、花をシンボルとしたまちづくりに取り組む都市で構成される「フラワー都市交流協議会」に加盟しており、平成14年には総会を開催し住民参加で成功をおさめるなど、「バラで美しい町」として誇れる町にするために、行政と住民が協力した活動を展開している。</p>

[地方公共団体]

<p>ふりがな 名称</p>	<p>たかやまし 高山市 (旧高根村)</p>
<p>所在地</p>	<p>岐阜県高山市</p>
<p>代表者</p>	<p>市長 土野 守</p>
<p>功績の概要</p>	<p>高山市の高根地域（旧大野郡高根村、平成17年2月に高山市と合併）では、平成元年から地域を訪れる観光客に地域の風土や自然景観を活かした花かざりを楽しんでいただくために、各種住民団体が地域に自生する山野草の花壇づくりに取り組んでいる。</p> <p>花壇に使用する山野草の苗は、地元の花弁育苗施設で生産し、毎年8月に高根地域の一大イベントとして開催する「日本一かがり火まつり」の会場周辺や、地域の主要国道、県道沿いなどに、地域全体にわたる花かざりを行っている。</p> <p>また、住民団体による環境美化の活動などにも、積極的に取り組んでいる。</p> <p>高根地域内の2つの小中学校でも花づくり花かざりに積極的に取り組み、花を育てること、花飾りを行うことで、情操教育を進める取組が定着している。</p> <p>これらの取組は、高原の美しい自然環境や、野麦峠などの歴史的風土に相応しい山野草を主体とした、ユニークな花のまちづくりである。過疎、高齢化が進む地域の時代環境に適合した着実な取組として、高く評価されている。</p>

[地方公共団体]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>やまなかこむら 山中湖村</p>
<p>所 在 地</p>	<p>山梨県南都留郡山中湖村</p>
<p>代 表 者</p>	<p>村長 高村 忠久</p>
<p>功績の概要</p>	<p>山中湖村は、富士山と山中湖の村にふさわしいイメージづくりを行うため全村公園化構想を策定し、休耕田を利用した50種類以上の花を植栽した30haの花畑などからなる花の都公園の整備、花に関する参加型イベント「花の都まつり」の開催、生垣整備や植樹など官民一体となった緑化推進に取り組んでいることにより平成8年の自治大臣表彰を受賞し、引き続き緑化に係る取組を実施している。</p> <p>花の都公園内の休耕田を利用した花畑は、チューリップ、ひまわり、コスモスなど季節ごとに美しい花が一面を覆い、秋には「コスモスフェスティバル」を開催するなど観光農業としての花の植栽をアピールするとともに、平成12年に開設した「フローラルドーム・ふらら」では、花にふれあう参加型イベントも開催しており、花の知識や生態などの情報提供、環境美化等の啓発を行っている。</p> <p>また、平成15年には、国指定天然記念物「山中のハリモミ純林」において、地元の小学生や住民がハリモミ苗木の植栽を行ったり、一万本の桜の植栽を展開するなど森林や林業に対する理解、自然保護の啓発にも取り組んでいる。</p>